

第24回

三重県文化賞受賞者名簿

三 重 県

第 24 回三重県文化賞 総評

三重県文化賞は、三重県の文化振興に貢献し、その活動や功績が優れた個人・団体（以下「個人等」という。）を讃えることにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標になるようにという趣旨で設けられた顕彰制度である。

表彰の体系は、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動と功績が優れ、本県の文化向上に貢献した個人等を対象にしている文化大賞、文化功労賞及び文化奨励賞と、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動で将来一層の向上が期待される個人等（県内在住又は三重県出身者に限る。）を対象にしている文化新人賞からなる。

平成 13 年度の第 1 回表彰から令和 5 年度の第 23 回表彰までの受賞者数は 319 名・団体（以下「名」という。）である。

受賞候補者の推薦は、公募により、自薦、他薦を問わない。

第 24 回目になる今回は、令和 6 年 8 月 13 日から 10 月 31 日まで募集を行ったところ、45 名の方からの推薦があり、受賞候補者は 45 名となった。

【募集結果】

受賞区分	推 薦 数	受賞候補者数
文 化 大 賞	11	11
文化功労賞	9	9
文化奨励賞	15	15
文化新人賞	10	10
計	45	45

各賞の受賞者については、三重県文化賞表彰要綱及び三重県文化賞実施要領の規定に基づき、学識経験者、芸術文化関係者等 10 名で構成する第 24 回三重県文化賞選考委員会（以下「選考委員会」という。）の選考を経て、知事が決定する。

選考委員会では、推薦書、履歴・業績調書、履歴・業績を示す資料を基に、必要に応じて内容の確認や追加資料の提出を求め、厳正かつ公正に行った。

選考委員会における各賞の選考過程は次のとおりである。

文化大賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が極めて優れ、三重県の文化の向上に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行って 4 名に絞り込み、第二次選考を行った。第二次選考に残った 4 名は、いずれの活動、功績とも素晴らしく優劣をつけが

たいものであったが、美術分野（伊勢根付）の中川俊夫（雅号：中川忠峰）さんを選出した。

文化功労賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が優れ、三重県の文化の活性化に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で、第一次選考を行って5名に絞り込み、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考の結果、伝統芸能分野（箏曲）の中井智弥さん、音楽分野（リコーダー教育）の長岡むつみさん、学術分野（熊野古道及び熊野学の研究）の三石学さんの3名を選出となった。

文化奨励賞は、「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動により功績を収め、三重県の文化興しに貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行った結果、11名が選出され、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたが、選考の結果、写真分野（写真芸術の振興と普及）の内山修さん、音楽分野（合唱・障がい者の音楽活動）の越知ひとみさん、美術分野（伊勢根付）の梶浦明日香さん、生活文化分野（観光ボランティアガイド）のカルチャーボランティアガイド「いがうえの語り部の会」、文学分野（俳句）の松村正之さんの5名を選出した。

文化新人賞は、「県内在住者又は三重県出身者で、芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動で、将来一層の向上が期待される個人等」に授与するものである。

この視点で第一次選考を行った結果、8名が選出され、第二次選考を行った。それぞれの分野において優れた活動実績が認められたことから、選考の結果、美術分野（オーストリアと熊野の芸術交流）のえのもとひささん、生活文化分野（書道）の小掠雄大さん、伝統芸能分野（邦楽）の西尾峯侑（本名：金子侑樹）さん、美術分野（陶芸）の山口美音（本名：大湾美音）さん、音楽分野（フルート）の吉田裕軌音さんの5名を選出した。

選考結果をみると、選考委員会での真摯な議論により、各賞とも素晴らしい方々を選出することができた。受賞された皆様におかれては、今後ますますのご活躍と、三重県の文化振興に一層寄与していただくことを期待したい。

今回の受賞者を分野別で見ると、学術分野1名、文学分野1名、美術分野4名、音楽分野3名、写真分野1名、生活文化分野2名、伝統芸能分野2名であった。

文学分野、音楽分野、生活文化等での推薦が多く、これらの分野で活躍される方々の層の厚さが窺われる一方、演劇・舞踊分野等の推薦が少なかったことから、三重県文化賞の広報活動を推進し、認知度を上げ、今後、幅広い分野からの推薦をいただけることを期待する。

なお、今回は大賞から新人賞まではバランス良く推薦があり、前回の募集件数を上回った。第 25 回以降は、より多くの、そして、より多彩な文化活動に携わっている方々の成果が多く推薦されることを願う。

最後に、三重県の文化の向上に寄与するため、三重県の文化活動のさらなる活性化と向上のための礎となることを願う。そのためにも、三重県文化賞の意義をより明快に県民に認知していただけるよう、広報をさらに充実することで、幅広い分野や多くの地域の方々からの積極的な応募につながることを切望する。

第 24 回三重県文化賞選考委員会

（受賞者名は各賞五十音順）

第24回三重県文化賞受賞者

(受 賞 者 名)	(住 所)	(活 動 分 野 等)
〔文化大賞〕		
中川 俊夫 (78歳) (雅号：中川 忠峰)	伊勢市	美術分野(伊勢根付)
〔文化功労賞〕		
中井 智弥 (46歳)	東京都 (津市出身)	伝統芸能分野(箏曲)
長岡 むつみ (61歳)	鈴鹿市	音楽分野(リコーダー教育)
三石 学 (70歳)	熊野市	学術分野(熊野古道及び熊野学の研究)
〔文化奨励賞〕		
内山 修 (77歳)	津市	写真分野(写真芸術の振興と普及)
越知 ひとみ (60歳)	松阪市	音楽分野(合唱・障がい者の音楽活動)
梶浦 明日香 (43歳)	四日市市	美術分野(伊勢根付)
カルチャーボランティアガイド「いがうえの語り部の会」	伊賀市	生活文化分野(観光ボランティアガイド)
松村 正之 (81歳)	志摩市	文学分野(俳句)
〔文化新人賞〕		
えのもと ひさ (43歳)	熊野市	美術分野(オーストリアと熊野の芸術交流)
小掠 雄大 (24歳)	伊勢市	生活文化分野(書道)
西尾 峯侑 (25歳) (本名：金子 侑樹)	松阪市	伝統芸能分野(邦楽)
山口 美音 (32歳) (本名：大湾 美音)	いなべ市	美術分野(陶芸)
吉田 裕軌音 (11歳)	伊勢市	音楽分野(フルート)

(各賞五十音順、年齢は令和7年6月1日現在)

賞別：文化大賞

活動分野等：美術分野（伊勢根付）

名 前	住 所	受 賞 理 由
なかがわ としお 中川 俊夫 (雅号：中川 忠峰) (78 歳)	伊勢市	氏は、昭和 53 年に大工から木彫の道に進み、伊勢根付を制作し始めた。日本橋高島屋や西武百貨店池袋本店での根付彫刻展に出品するなど、伊勢根付を全国にアピールするとともに、米国「根付ソサエティ」誌での紹介、大英博物館への出品、ロサンゼルスカウンティ美術館への出品など、その作品が海外からも高く評価されている。 また、その技術の高さや活動の功績が認められ、国際根付彫刻会会長をはじめ、伊勢志摩木彫会会長、伊勢の匠会会長、伊勢市美術展覧会運営委員会副委員長、木彫根付唯一の公募展である高山市木彫根付公募展審査委員長等、数々の要職を歴任した。 さらには、後継者の育成にも力を入れており、各地教室における生徒はのべ 250 人を超え、現在活動する伊勢根付職人はほぼ全員が氏の弟子である。 これらの活動により、平成 23 年には伝統的工芸品産業功労者褒章を受章した。 その他、地域の文化振興の活動にも熱心に取り組み、毎年夏休みにおかげ横丁で子供体験会を催すなど、地元に着した活動も多く行っており、特に、三重県内のまちかど博物館発祥の地である伊勢の伊勢まちかど博物館運営委員会会長として、地域の活性化に貢献している。 氏のこうした活動と功績は極めて優れたものであり、本県の文化の向上に大きく貢献している。

賞別：文化功労賞

活動分野等：伝統芸能分野（箏曲）

名 前	住 所	受 賞 理 由
なかい ともや 中井 智弥 (46 歳)	東京都 (津市出身)	氏は、東京藝術大学音楽学部邦楽科在籍中の平成10年に「第1回 中井智弥 箏・二十五絃箏リサイタル三重公演」を開催して音楽活動を開始した。 平成13年に同大学を卒業すると、箏三絃教室「いはな会」を開き、地元三重を含めた人材育成に尽力している。 演奏家としては、東京を拠点に各地の公演に出演するとともに、CD発売や動画配信を通じて、自ら作曲した二十五絃箏による作品を発表してきた。日本の伝統的な地歌箏曲の継承にも尽力しており、平成30年の「日本スウェーデン外交関係樹立 150 周年記念」スウェーデン公演など、国際交流の舞台にも多く登場している。 また、明和町の特別観光大使に就任するとともに、活動の出発点となったリサイタル三重公演が25年以上続いているなど、地元三重の文化振興に寄与する精力的な活動を続けている。 さらに、鈴鹿市、亀山市で学校公演を行うなど、地域に密着した活動も多数行っている。 氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。

賞別：文化功労賞

活動分野等：音楽分野（リコーダー教育）

名 前	住 所	受 賞 理 由
ながおか 長岡 むつみ (61 歳)	鈴鹿市	氏は、20 代から東京リコーダー協会の講師として、各地の小学校でリコーダーの導入指導を行った。平成 15 年から常勤講師として鈴鹿市立神戸小学校で「神戸ジュニアリコーダークラブ」を創部すると、以降、鈴鹿市内の各小学校でリコーダークラブを創部して、20 年にわたりのべ約 350 名の生徒を育成した。 指導したリコーダークラブは、「全日本リコーダーコンテスト」で複数回にわたって金賞を受賞するとともに、最高位の花村賞を 6 度受賞した。全ての楽器が対象となる「こども音楽コンクール」の重奏部門では、平成 29 年度に文部科学大臣賞に輝いている。 また、日本各地で主に小学校教員を対象としたリコーダーの指導法講習会を行い、出版した指導法の書籍は 1 万部以上発行されている。 さらに、地元鈴鹿市の音楽祭への参加、介護施設への慰問など積極的に地域の文化振興に資する活動を行うとともに、東日本大震災の際には複数回のチャリティーコンサートを開催している。 氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。

賞別：文化功労賞

活動分野等：学術分野（熊野古道及び熊野学の研究）

名 前	住 所	受 賞 理 由
みつし まなぶ 三石 学 (70 歳)	熊野市	氏は、昭和 55 年に熊野市役所に入職して以来、埋もれた熊野古道伊勢路の発掘、調査研究を行い、熊野古道の整備に努めた。 平成 12 年には、東紀州地域活性化のための官民共同地域学シンクタンクとして「みえ熊野学研究会」を立ち上げ、「熊野道中記」をはじめとする研究誌や、情報誌「おくまの」の編集発刊に携わってきた。個人名義では、「熊野から読み解く記紀神話」など多数の書籍を発刊し、熊野を学んでもらうための執筆活動を行っている。 さらに、平成 9 年から、熊野学講師として明治大学や早稲田大学などで公開講座を行い、熊野の歴史・文化の普及に尽力した。 平成 16 年に「熊野古道伊勢路」がユネスコの世界遺産に登録された際には、ユネスコ・イコモス調査団の説明員を担当するとともに、基礎調査を行った。 現在は、「熊野古道伊勢路語り部友の会」顧問として語り部を育成・指導し、「熊野旅の文化企画」代表として旅の企画、ガイドを行いながら、講演・講座を通じて、熊野を全国に発信している。 氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。

賞別：文化奨励賞

活動分野等：写真分野（写真芸術の振興と普及）

名 前	住 所	受 賞 理 由
うちやま おきむ 内山 修 (77 歳)	津市	氏は、平成 22 年に河芸写真サークルに入会して、本格的に写真活動を開始した。平成 23 年の第 6 回「津市美術展」での津市教育長賞を皮切りに、同展で 5 度の入賞を果たし、平成 24 年の第 63 回「みえ県展」から令和元年の第 70 回の同展まで 8 年連続で入選した。 また、平成 30 年の全日本写真連盟中部本部「写真公募展」秀作や、令和 2 年の二科会写真部展「第 68 回展」日本カメラ財団賞など、県域を越える写真コンテストでも多くの入賞・入選歴を誇る。 河芸写真サークルでは長年書記を務め、平成 23 年に入会した二科会写真部三重支部では令和 2 年に事務局長に就任し、全日本写真連盟三重県本部本城支部が設立された際には副支部長兼書記を担当するとともに、同連盟三重県本部委員から同連盟総本部委員を歴任するなど、自身の写真活動に加え、地域の写真文化の発展に寄与している。 その他、平成 26 年からは河芸文化協会の理事にも就任し、写真分野にとどまらず、地域文化の育成にも尽力してきた。 氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。

賞別：文化奨励賞

活動分野等：音楽分野（合唱・障がい者の音楽活動）

名 前	住 所	受 賞 理 由
おち 越知 ひとみ (60 歳)	松阪市	氏は、昭和 63 年から声楽家として、県内を中心に、これまでソロリサイタルの開催に加え、オペラや 50 回を超える所属団体等主催コンサートなどに出演するとともに、社会福祉施設での音楽活動も行っている。 また、昭和 63 年、子どもたちが生演奏を聴ける機会を増やすためクラシック音楽演奏グループ「MusicBox」を設立し、現在まで代表を務め、コンサートを開催している。 さらに、平成元年、地域で子どもの文化活動の場を作るため「松阪少年少女合唱団」を設立し、現在まで指揮者兼事務局を務め、ボランティアで指導を行ってきた。同合唱団は「全日本ジュニアコーラスフェスティバル' 93（第 7 回少年少女合唱祭）」でそよかぜ賞を受賞している。 その他、平成 15 年には、障がい者とボランティアの音楽サークル「MUSICA PINE」を設立、平成 22 年には知的障がい者の音楽ユニット「ラッキー★スター」を結成するなど、障がい者・障がい児との音楽活動を主宰している。 氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。

賞別：文化奨励賞

活動分野等：美術分野（伊勢根付）

名 前	住 所	受 賞 理 由
かじうら あすか 梶浦 明日香 （43 歳）	四日市市	氏は、NHK名古屋放送局・津放送局キャスターとして「ほっとイブニング『東海の技』」を担当し、様々な職人を自ら取材した経験から、伝統工芸の素晴らしさに感銘を受け、伊勢根付職人の中川忠峰氏に弟子入りをした。 平成 24 年から、制作した根付の展示販売を開始し、平成 28 年に「飛騨高山現代木彫根付公募展」で優秀賞を受賞、その他「国際交流基金 現代木彫根付海外巡回展」への出展など、海外にも作品を発信している。 また、後継者の希望が少ない中、若手職人の現状を変えようと、異業種の伝統工芸職人を集め、平成 24 年には三重県の若手職人グループ「常若」を結成し、平成 29 年には東海 3 県の若手女性職人グループ「凜九」を結成した。「常若」は、伊勢志摩サミット開催時の志摩観光ホテルでの展示や、香港・マレーシア・ベトナムでのワークショップを行い、「凜九」では各地で展示販売イベントを開催するとともに、令和 3 年に「第 1 回日本和文文化グランプリ」で特別賞を受賞した。 氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。

賞別：文化奨励賞

活動分野等：生活文化分野（観光ボランティアガイド）

名 前	住 所	受 賞 理 由
カルチャーボランティアガイド「いがう えの語り部の会」 （代表：田畑寛一）	伊賀市	当団体は、平成6年4月に結成された。県内有数の文化財を有する伊賀上野を訪れた人に「文化薫る歴史のまち」を紹介し続け、平成12年には旧・上野市制59周年記念式典で、市から感謝状を贈呈されており、令和7年4月に31年目を迎える。 平成19年から、次世代に経験と技量を継承するため、市民に門戸を開いた「新人ガイド養成講座」を隔年で開催しており、発足時約10名だった会員数は、現在では50名を超えるまでになっている。 観光ガイドに加え、講演会の開催や、地域イベントへの参加などを通じて、観光に訪れた人と地域に暮らす人たちとの交流を実現している。 また、当団体では、近隣の文化財施設などで現地研修会を概ね月1回開催してスキルアップを図るとともに、上野公園内の主要観光スポット2か所で自主ガイドを月2回実施するなど、継続した活動を行っている。 当団体は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。

賞別：文化奨励賞

活動分野等：文学分野（俳句）

名 前	住 所	受 賞 理 由
まつむら まさゆき 松村 正之 (81 歳)	志摩市	氏は、平成 17 年に「たていし俳句会」へ参加した後、平成 19 年に俳句結社「山繭」へ入会し、本格的に作句活動を開始して以来、平成 24 年「第 58 回守武俳句大会」守武祭賞、平成 29 年結社賞である山繭賞、平成 30 年「第 87 回三重県俳句協会秋季大会」三重県知事賞、令和 4 年「第 57 回関西俳句大会」関西俳句大会賞、令和 6 年「全国俳句協会俳句大賞」秀逸賞など、多くの俳句大会において入賞を果たしている。 また、平成 21 年に入会した「志摩市俳句協会」では事務局を務め、平成 26 年に「阿児句会」で会長に就任し、令和 2 年に三重県俳句協会理事、令和 3 年に「俳人協会三重県支部」で幹事と、現在に至るまで各俳句団体等で要職を歴任している。 さらに、句会などで後進を指導するとともに、俳誌「山繭」では現代俳句鑑賞を担当し、また、独自の視点から投句に鋭い選評を行って、会員の勉強の場を提供するなど県内の俳句文化の振興に尽力してきた。 氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。

賞別：文化新人賞 活動分野等：美術分野（オーストリアと熊野の芸術交流）

名 前	住 所	受 賞 理 由
えのもと ひさ (43 歳)	熊野市	氏は、平成 17 年、オーストリア国立ウィーン美術アカデミー大学に入学し、平成 22 年に卒業後、作家活動を開始し、ウィーンと日本国内で展示会を開催している。 また、アーティスト・イン・レジデンスとして平成 29 年には熊野市神川町にオーストリア、ドイツ、日本の作家を招いて「KUMANONISUMU！2017」を開催し、令和 4 年には熊野市神川町と木本町にオーストリアと日本の作家 10 名を招いて「KUMANONISUMU！2022」を開催するなど、作品制作、市民交流ワークショップ、作品展など様々なイベントを行っている。 さらに、令和 4 年には、三重県立熊野古道センターで、企画展「えのもとひさ展一吊るすー」を開催した。 東紀州地域の活性化に寄与する文化活動を通じて、オーストリアと熊野の芸術活動の橋渡し役として活躍している。 氏のこうした活動には、将来一層の向上が期待できる。

賞別：文化新人賞

活動分野等：生活文化分野（書道）

名 前	住 所	受 賞 理 由
おぐら ゆうだい 小 掠 雄大 (24 歳)	伊勢市	氏は、皇學館大学文学部国文学科に在学中の令和元年に書道部展に出展後、同年より書を通じた活動を積極的に行ってきた。在学中より、全国規模の公募展である「読売書法展」の入選のほか、同じく全国規模の「謙慎書道会展」や中部地方で開催する「中日書道展」において、入選、入賞を収めてきた。 また、県内においても「みえ県展」での入選、「伊勢市美術展覧会」では「市議会議長賞」など優秀な成績を収めている。令和5年には、「卒業記念制作小掠雄大書作展」を開催している。 同年からは同学の大学院に進み、令和6年には「三重県書道連盟展」で知事賞を受賞するなど多くの優秀な成績を収めてきた。自身の活動に加え、各書道団体の運営に携わるほか、高等学校の非常勤講師や書道部の指導者として後進の育成にも努めている。 氏のこうした活動には、将来一層の向上が期待できる。

賞別：文化新人賞

活動分野等：伝統芸能分野（邦楽）

名 前	住 所	受 賞 理 由
にしお みねゆう 西尾 峯侑 (本名:金子 ゆうき) (25 歳)	松阪市	氏は、平成 20 年、8 歳の時に加藤訓峯（現・西尾峯一）氏に師事、「訓峯会（現・邦楽西尾会）」に入会し、沖縄三線を始めた。様々な邦楽を学べる同会で、平成 24 年 12 歳から津軽三味線を始め、令和 6 年に同会師範に昇格し、現在は民謡三味線、鳴り物、長唄、民謡なども手掛けている。 平成 20 年「訓峯会おさらい会」で演奏して以来、同会の演奏会に出演するとともに、同会が所属する各邦楽団体の一員として数多くの演奏会に出演してきた。 平成 30 年「郷土民謡全国大会」合奏の部及び連合会対抗戦で加藤流藤秋会の一員として優勝、令和 6 年「全日本津軽三味線競技会名古屋大会」一般の部 C 準優勝など、各邦楽大会で優秀な成績を収めている。 また、「全国伊勢音頭連絡協議会」の会員として、三重県の伝統文化である伊勢音頭の保存・継承も担っている。 氏のこうした活動には、将来一層の向上が期待できる。

賞別：文化新人賞

活動分野等：美術分野（陶芸）

名 前	住 所	受 賞 理 由
やまぐち み お 山口 美音 （本名：大湾 美音） （32 歳）	いなべ市	氏は、平成 29 年に愛知教育大学大学院教育学研究科芸術教育専攻を修了し、令和 3 年に多治見市陶磁器意匠研究所セラミックスラボを修了した後、令和 4 年からいなべ市で作陶活動を開始した。 愛知教育大学教育学部在学中の平成 26 年に京都府「第 48 回女流陶芸公募展」で入選すると、大学院在学中の平成 28 年には、石川県「第 3 回金沢・世界工芸トリエンナーレ 2017」金沢世界工芸コンペティションで入選、山口県「萩大賞展Ⅳ」で入選、そして京都府「第 50 回女流陶芸公募展」では京都府知事賞に輝き、全国各地の陶芸展等で入賞・入選に輝いている。 令和 5 年にはシカゴ美術館「Radical Clay : Contemporary Women Artists from Japan」に出品するとともに、美術館の講演会のゲスト出演するなど、国内外で活躍の幅を広げている。 氏のこうした活動には、将来一層の向上が期待できる。

賞別：文化新人賞

活動分野等：音楽分野（フルート）

名 前	住 所	受 賞 理 由
よしだ ゆきと 吉田 裕軌音 (11 歳)	伊勢市	氏は、令和2年、小学校1年生でフルートを習い始め、現在フルート歴5年である。令和3年に発表会に初めて参加した後、令和4年に地元伊勢の児童センターで老人ホームとの交流会で演奏を披露して、演奏活動を開始した。 以後、四日市市、鈴鹿市、津市、鳥羽市、そして伊勢市の県内各地で、演奏活動に参加しており、令和6年には、四日市市の地元の学生オーケストラとのコンチェルトコンサートに、フルートソリストとして参加した。 令和5年には、「第24回大阪国際音楽コンクール」インファントAコースで第1位に輝くと、令和6年には、「第10回刈谷国際音楽コンクール」小学生部門最優秀賞と審査員特別賞、「第2回さいたま国際音楽コンクール」ジュニア部門金賞と審査員特別賞、全日本管楽コンクール2023小学生部門で金賞、「みえ音楽コンクール」小学生部門で第1位と三重県知事賞を受賞している。 氏のこうした活動には、将来一層の向上が期待できる。

第24回 三重県文化賞の概況

1 賞の趣旨

三重県の文化振興に貢献し、その活動及び功績が優れた個人・団体を表彰することにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標にもなるよう、顕彰制度として三重県文化賞を設ける。

2 募集期間

令和6年8月13日から10月31日まで

3 受賞候補者の状況

文化大賞	11名	
文化功労賞	9名	
文化奨励賞	15名	
文化新人賞	10名	総数 45名

4 受賞者の状況

(1) 分野別受賞者数

賞区分	分 野											計
	文学	美術	音楽	演劇・舞踊	写真	メディア芸術	伝統芸能	生活文化	学術	伝統工芸	その他	
文化大賞		1										1
文化功労賞			1				1		1			3
文化奨励賞	1	1	1		1			1				5
文化新人賞		2	1				1	1				5
計	1	4	3		1		2	2	1			14

(2) 地域別受賞者数

賞区分	地 域（各地域防災総合事務所・地域活性化局）										計
	桑名	四日市	鈴鹿	津	松阪	南勢志摩	伊賀	紀北	紀南	県外	
文化大賞						1					1
文化功労賞			1						1	1	3
文化奨励賞		1		1	1	1	1				5
文化新人賞	1				1	2			1		5
計	1	1	1	1	2	4	1		2	1	14

三重県文化賞歴代受賞者(第1回～第24回)

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第1回	平成13年度	北村憲司(児童文学)	勝美伊三次(日本舞踊) 保黒時男(植物生態学調査)	あの津っ子の会(児童文学) 伊勢管弦楽団(交響楽) 伊藤宏樹(吹奏楽) 落合花子(詩歌) 川端守(地域づくり活動)	新井明子(演劇) 津手づくり絵本の会(児童文学) 坪井智子(箏曲) 伴 剛一(作曲活動) 東川和子(川柳) 平田 環(俳句)
第2回	平成14年度	(該当者なし)	亀山絵本と童話の会(児童文学) 坪島土平(陶芸) 三重ヴォークスボーナ(合唱)	伊勢シンフォニックバンド (吹奏楽) 菅生三千代(箏曲) 羽場正一(演劇) 黛 元男(詩歌) 南川憲生(彫刻)	池田比早子(ひのきクラフト) 鎌田美津子(写真) ゴルジ隊(演劇) 阪野 優(マンボ研究) 田中 豊(演劇) 中森 勉(写真) 平賀節代(俳句) 森田茂治(詩歌)
第3回	平成15年度	稲垣克次(彫刻)	川北佐平治(伝承芸能) 中村武郎(ギター・マンドリン) 山口勲(俳句)	金子聡(環境科学研究) 北住淳(ピアノ演奏) 近藤英子(彫刻) 森一蔵(萬古焼) 山内玲子(箏曲)	石井烈(俳句) 佐々木經子(俳句) 東勝美(児童文学) Building Bridges (文化資産等の保護) 津軽三味線兄弟ユニット KUNI-KEN(津軽三味線) 三浦恭子(インド舞踊) 水野昌光(地域の映画館を 活用した市街地活性化)
第4回	平成16年度	ヴォーカルアンサンブル 《EST》(合唱)	岡村信也(吹奏楽) 土屋喜八郎(能楽) 中林長生(俳句)	笠井幹夫(オペラ) 木岡ふみ子(箏、三絃) 佐々木宏子(ピアノ演奏) 清水正明(郷土文学者・ 文学作品の発掘、紹介) 谷口智行(俳句)	阪本青悠(書) 高崎一郎(詩) 中山かほり(吹奏楽) 藤田智子(箏、十七絃等) 松田実靱(小説) 三重大学ダンス部(ダンスの創作)
第5回	平成17年度	野口已織子(日本画)	関宿町並み保存会 (関宿の町並み保存) 田村美保子(大正琴) 間瀬 昇(評論、小説)	田村公男(洋画) 東海かおり(箏、三絃) 福山良子(俳句) 松嶋 節(小説) 山村楽女(日本舞踊)	伊勢童話をつくる会“ほほえみ” (童話) 麻植慶治(雅楽) 奥山和子(俳句) 後藤千佳子(筆名;伍東ちか) (現代詩) 津村美香(フラワーデザイン) 人情集団An-Pon-Tan (バリアフリーミュージカル)
第6回	平成18年度	谷本光生(伊賀焼)	岡森 章(伊賀焼) 森 浩一(能楽・狂言)	川島雅樹 (声楽・オペラ・合唱) 水谷幸勉(工芸美術) 宮村典子(川柳) 村上しいこ(童話) 三重オペラ協会(オペラ)	佐藤千恵(俳句) みえ熊野学研究会 (地域資産研究)

三重県文化賞歴代受賞者(第1回～第24回)

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第7回	平成19年度	宮田正和(俳句)	越知愛幸子(合唱) 中川忠峰(根付) 吉居清雄(堅塩作り)	中山かほり(吹奏楽) 西田誠(俳句) 秦昌弘(郷土作家の研究) 服部博之(和太鼓) 馬場浩子(声楽)	アモーレかめやま(大正琴) 梅山憲三(現代詩) 垣内美穂(詩・児童文学) 桐生智晃(吹奏楽) 葛原郁子(短歌) 現代邦楽奏団グループ竹友(邦楽) 比留間雅弥真天(邦楽)
第8回	平成20年度	小野雅生(洋画)	稲垣無得(書) 倉田しげる(俳句)	伊藤政美(俳句) 岩崎孝子(洋画) 津田親重(日本画) 野村幸廣(ミュージカル) 山本翠松(伝統漆工芸)	秋野信子(詩・小説) 岡本妙子(詩) 劇団員弁川(演劇) 福田容子(俳句)
第9回	平成21年度	園田 幸男(吹奏楽)	赤井 重規(能楽) 原 直矢(彫刻) 鍋島 泰(方言の研究)	橋本 輝久(俳句) 三重県吹奏楽連盟(吹奏楽) 田中 厚好(彫刻) 青木 久佳(短歌) 岸 武男(演劇)	山口 道子(版画) 前田 照子(俳句) やまぎり 萌(現代詩) 林 英一(多文化共生の研究) 長岡 むつみ(リコーダー指導) 中川 左和子(短歌)
第10回	平成22年度	長島 幹生(写真)	相賀 泰(神楽) 衣斐 弘行(評論・小説の執筆、郷土作家の顕彰) 川合 俊平(合唱)	小河 柳女(川柳) 津奈乃会(邦楽) 矢田 新男(写真) 矢吹 紫帆 (音楽による地域振興)	小早川 涼(小説) 佐藤ゆかり(女性史の研究) 多気町劇団白つばき(演劇) 橋倉 久美子(川柳) 橋本 石火(俳句) 堀内 晶(地域の歴史・文化と戦争体験の語り継ぎ) 村田 三郎(地域文化の紹介と観光ボランティアガイド) 村山 砂由美(詩)
第11回	平成23年度	稲葉 祐三 (声楽・合唱・オペラ)	田嶋 禮子(マリンバ) 玉置 千代(児童文学) 野嶋 峰男(木漆工芸)	伊藤 清和(美術の振興) 神田 ひろみ(俳句・評論) 清崎 博(安乗の人形芝居) 山崎 龍芳(伊賀焼) 四日市ジュニア・アンサンブル(合奏等)	越知 ひとみ(音楽の普及) 小津 由実(俳句) 斎宮アカデミー(歴史・文化) 清水 潮(萬古焼) 中西 紀和(陶芸)
第12回	平成24年度	橋本 三重子(日本画、書道)	伊藤 政美(俳句) 角谷 英明(陶芸) 菅生 和光(吹奏楽、指揮者)	桐生 智晃(吹奏楽) 坂尾 富司(写真) 中村 かおる(箏曲) 西田 真也(陶芸) 三重県陶芸協会(「焼きもの」の振興)	真山 隼人(浪曲) 志摩市俳句協会(俳句) 手塚 泰子(俳句) 西村 健二(郷土史研究) 堀川 孝子(詩) 村松 とし子(短歌)
第13回	平成25年度	三重フィルハーモニー交響楽団(交響楽)	羽場 正一(演劇) 羽根 功二(合唱) 森 悦彦(作詞・作曲)	小川 匪石(書) 紀の川良子と市民劇団(演劇を通じた地域振興) 阪本 青悠(書) 達知 和子(短歌) 比留間 雅弥真天(箏・三弦)	岩田 典子(俳句) 服部 真紀子(陶芸) 廣 めぐみ(声楽)
第14回	平成26年度	加藤 子華(書)	谷本 景(伊賀焼) 森 正(陶芸) 脇谷 実千子(児童文学)	尾崎 亥之生(俳句) 武村 豊徳(陶芸) 伴野 節子(箏・三絃) 吉川 光和 (競技かるたの読み手) 吉崎 柳歩(川柳)	伊藤 圭佑(津軽三味線) つげ みさお(児童文学) 西田 昂平(声楽) 和太鼓 凜(和太鼓)

三重県文化賞歴代受賞者(第1回～第24回)

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第15回	平成27年度	三代 清水 酔月(陶芸)	加藤 純一(詩吟) 福田 勝(能楽) 松山 好成(組紐)	印藤 幸恵(陶芸) 坂口 緑志(俳句) 田邊 三郎(写真) 中井 智弥(箏曲) 安田 隆亮(絵画)	牛場 寿子(写真) 大形 弥生(木工) 駒田 早代(津軽三味線) 野瀬 みつ子(写真) 平野 透(俳句)
第16回	平成28年度	錦 かよ子(作曲)	石井 いさお(俳句) 矢田 新男(写真)	梅山 憲三(現代詩) 岡本 千尋(俳句) 加藤 秀樹(陶芸) 憲旺会(尺八) 伴 剛一(作曲)	伊藤 潤一(書) 前田 祐英(木工) 森川 眞理子(パステル画) 森下 充子(俳句) 横田 千明(彫刻)
第17回	平成29年度	合唱団「うたおに」(合唱)	井上 博暁(俳句) 菊川 淑子(能) 桐生 智晃(吹奏楽)	牛場 和美(写真) 紺谷 猛(小説) 近藤 たみ(陶人形) 藤原 伸久(小説) 森 玲子(箏曲)	赤野 四羽(俳句) 岡島 千秋(俳句) 久保 恵子(詩・児童文学) 小林 美咲(声楽) 白木 千華(陶芸)
第18回	平成30年度	林 克次(陶芸)	多門 志風(水墨画) 恒岡 光興(伊賀焼) 西川 里寿(日本舞踊)	現代邦楽奏団「新しいぶき」 (邦楽) 谷本 雅一(石彫刻) 辻井 甫山(尺八) 戸田 真樹(文芸評論) 西尾 敬一(俳句)	岩田 優里愛(ヴァイオリン) 高藤 典子(詩・短歌・俳句) 竹内 洋司(尺八) 藤田 哲也(日本画) 森本 昭子(俳句)
第19回	令和元年度	大川 吉崇(郷土文化)	荒木 友梅(書道) 河俣 和子(合唱) 橋本 輝久(俳句)	遠藤 昭己(小説・詩) 女声合唱 Luce(合唱) 名張こども能楽囃子教室実行委員会 (能楽囃子) 平賀 節代(俳句) 村山 昌子(小説・童話)	岩名 泰岳(絵画) 小川 はつこ(散文) 川渕 皓平 (竹製ランプの制作・演出) 清水 ゆん(短歌) 橋本 莉(大正琴)
第20回	令和2年度	菅生 和光(吹奏楽・指揮)	兼重 直文 (ピアニスト・音楽指導者) 坂尾 富司(写真) 津女声合唱団(合唱)	加藤 訓峯(邦楽) (現:西尾 峯一) 中川 瑠雲(書道) 橋倉 久美子 (川柳・エッセイ・小説) 林田 さなえ(ガラス工芸) 松阪もめん手織り伝承グループゆうづる会 (松阪木綿)	加藤 ひろな(デザイン) 中村 栄宏(リコーダー) 百地 拓窓(書道)
第21回	令和3年度	川口 祐二 (地域伝統文化の保存啓発活動)	佐々木 洸舟(書道) 谷本 善聖 (民謡・三味線) 養正コーラス(合唱)	稲垣 竜一(陶芸) 岡村 仲江(写真) 野瀬 みつ子(写真) 廣山 三千代 (美術工芸・染色) 前田 典子(俳句)	小林 純生 (作曲及び音楽イベントの実施) 佐藤 敬(建築) 村山 響(ピアノ) 山田 風雅(彫刻・立体造形)
第22回	令和4年度	紀平 昌伸 (手描き映画看板)	神田 ひろみ(俳句) 小牧 昭夫(陶芸) 津田 親重(日本画)	伊藤 潤一(書道) 亀山トリエンナーレ実行委員会 (現代アート) 佐々木 典子 (フラメンコ舞踊) 城島 正子(写真)	大西 佐奈(絵画) 橋本 英幸(写真) 麦畑 羊一(同人雑誌の発行) 梁井 英雄(写真)
第23回	令和5年度	加賀 瑞山 (陶芸)	小島 憲二(陶芸) 高尾 静玉(書道) 谷本 雅一(石彫)	岩木 和樹(合唱) 大杉 華桜(彫型画) 柴田 ただしげ(スナップ・心象風景) 平田 茂(彫刻) 三重県まちかど博物館ネットワーク (文化資源を生かした地域の活性化)	奥亀屋 一慶(絵画) 渋谷 むつこ(俳句) 玉山 翔偉(人力車俤夫) 原 宗史(チェロ) 山口 さやか(韓日文芸翻訳)
第24回	令和6年度	中川 忠峰 (伊勢根付)	中井 智弥(箏曲) 長岡 むつみ(リコーダー教育) 三石 学(熊野古道及び熊野学の研究)	内山 修(写真芸術の振興と普及) 越知 ひとみ(合唱・障がい者の音楽活動) 梶浦 明日香(伊勢根付) カルチャーボランティアガイド「いがうえの語り部の会」 (観光ボランティアガイド) 松村 正之(俳句)	えのもと ひさ(オーストリアと熊野の芸術交流) 小掠 雄大(書道) 西尾 峯侑(邦楽) 山口 美音(陶芸) 吉田 裕軌音(フルート)